

！ 人々をつなげる活動

東日本大震災が発生したあと、様々な公的機関や団体が多くの人々のために活動を行ってきました。どのようにして取り組み、災害に対処したのかをふり返ってみましょう。

1 広域協力体制，公的な機関の活動

避難誘導，救助活動，避難所運営，ガス・水道・電気などのライフライン復旧のために，警察・消防・自衛隊・行政など，仙台市以外の都道府県や市町村からもたくさんの応援がきました。また相互支援協定を結んでいる地区からの支援もありました。



消防ヘリによる救助活動



自衛隊による救援物資輸送



他県からのガス・水道復旧工事支援



泉区松陵地区に加美町小野田地区からの給水支援

2 日本赤十字社の活動，JRC(青少年赤十字)の活動

日本赤十字社は、医療支援に加えて、各都道府県からの救援物資を被災地に届けました。また、青少年赤十字のメンバーも地元の赤十字奉仕団と協力して、支援活動を行いました。



救援物資を運び出すスタッフ



被災された方へ救援物資を手わたすスタッフ



物資を配布する地域の方々と青少年赤十字メンバー

【物資搬送スタッフの声】

発災当日は、自分の家族の安否も分からず大きな余震が続く中、不安な気持ちもありましたが、わたしたちの助けを必要としている人がいると思うと一刻も早く救援物資を届けたいという気持ちで仕事を行っていました。また、県外から救援物資が届いたときは、物資を届けるだけではなく、支援してくれた方の気持ちも被災者の方に届けたいと思いました。

【医療スタッフの声】

石巻赤十字病院では、多くのスタッフが家族や自宅を失いましたが、「患者さんのためになりたい。」というスタッフの意志は衰えませんでした。

次々に運ばれてくる患者さんを前に、みんな夢中で、一人でも多くの人を救いたいとの思いで対応にあたりました。